

総務産業常任委員会 視察報告書

令和7年11月4日（火）～11月6日（木）

石川・福井県

総務産業常任委員会 平出広志

1 石川県 中能登町議会

「能登半島地震における被害の概要と行政対応。復旧・復興の現状と課題。防災施策のに直し等具体例。発災後の議会対応について」

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地である中能登町の被害状況と発災後の町の対応と現状

について具体的に説明を受けた。特に、大規模災害時に支援体制の準備確認が非常に重要であることを学ぶことができた。

議会として、議会災害対策支援本部設置要綱を令和2年に策定し、町災害対策支援本部と連携し、情報収集、提供や避難所等の調査を行う体制整備がされている現状を確認できた。

当議会においても将来的に策定する必要があると感じた。

2 石川県羽咋市 JA はくい 営農部のと里山農業塾

「有機農業実施計画の概要と課題。農地の担い手確保の現状と展望。慣行農業従事者との共有。行政との共同について」

「奇跡のりんご」のモデル青森のりんご農家木村秋則氏の無肥料無農薬栽培の講演を機会に「自然栽培」の集客力に注目し、人口減対策として「自然栽培農家」の育成に市、JAが協力して取り組んでいる。

のと里山自然栽培部会を「JA はくい」に設立し本格的に自然栽培の普及促進に取り組んでいる。農薬、化学肥料を販売するJAが自然栽培を推進する方法に驚きを感じたが、あくまでも数ある農法の一つとして、特徴を尖らせる施策として参考となった。

すぐに当町に活かせる手法ではないが、都会から田舎への移住に繋がる施策として参考となった。

3 福井県 あわら市議会

「行政DX推進における現状と課題。DX推進事業の概要と各分野での具体施策について」

「スマートシティあわら」の実現に向けて、生活、産業、教育、行政の4つの分野に分けてアクションプログラムにて進捗管理を進めている点は非常に参考となった。

地域活性化企業人の登用により、効果的なDX推進の土台づくりを行っている。

職員によるDX推進員の任命にあたっては手あげ方式で募集し「変化の起点」となる職員を育成する手法

は非常に有効である。

市民公募による「デジタル推進員」の任命も市民のノウハウの活用により、DX 推進が広く市民に浸透しつつあることを感じ取れる。

4 福井県池田町 ウッドラボ池田

「林業振興について。ウッドラボ池田の視察他」

岐阜県との県境にある池田町は 92 %が森林に囲まれた「木のまち」である。100 年後も森とともに生きる「木望の森 100 年プロジェクト」を策定し、新たな森林経営の実践、バイオマス材製造、等木のまち推進を進めている。

町の森林資源を生かした「木材活用」「エネルギー利用」の拠点施設として「WOOD LABO IKEDA」を整備した。ここでは木工商品製造、木工体験実習、未来戦略とし産業化研究等を実践している。

「池田杉」の町の森林資源を核として、「持続可能な社会」に取り組む町づくりに期待したい。